

超急速ガラス化保存胚の直接移植に向けた検討

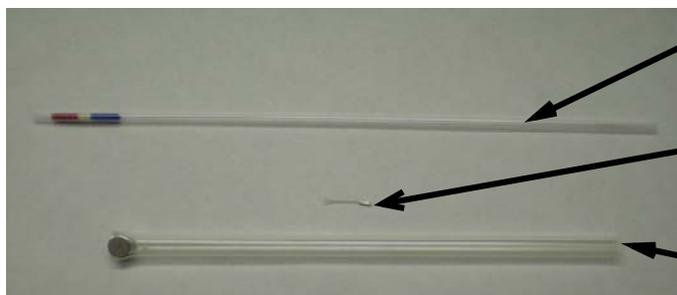
超急速ガラス化保存技術は、凍結用機器が不要で、凍結時の氷晶ダメージがないため、胚の生存性も高いとされています。

一方、このガラス化保存胚を牛に移植する際は、融解してストローに詰め直す作業が必要なため、現場では使用しにくい保存方法です。

この欠点を解消するため、直接移植することを前提とした、超急速ガラス化保存方法の胚生存性について、共同試験に取り組んでいます。



液体窒素中でガラス化胚の保存作業



↑ ガラス化胚を操作する器具

胚の保存と母胎へ移植するためのストロー（長さ13cm、外径2mm）

胚をストロー内に入れる金具（移植前の融解後に取り出す）

上記の器具をストロー内に挿入
取出しをする磁石付き器具